

「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」世界遺産登録

【 ものづくり日本 】

幕末から明治にかけて海外の科学技術と自国の伝統の技を融合し、わずか50年あまりで産業化を成し遂げた日本。8県11市にわたる23の構成資産について、平成21年1月にユネスコ世界遺産暫定一覧表に記載され、この度、平成27年7月にユネスコ世界遺産に登録されました。

## 【全体の構成資産】

- 萩地域（山口県）：萩反射炉、恵美須ヶ鼻造船所跡、萩城下町、大板山たら製鉄遺跡、松下村塾
  - 鹿児島地域（鹿児島県）：旧集成館、寺山炭窯跡、関吉の疎水溝
  - 佐賀地域（佐賀県）：三重津海軍所跡
  - 葦山地域（静岡県）：葦山反射炉
  - 釜石地域（岩手県）：橋野高炉跡及び関連遺跡
  - 長崎地域（長崎県）：小菅修船場跡、長崎造船所第三船渠、長崎造船所旧木型場、長崎造船所ジャイアント・カンチレバークレーン、長崎造船所占勝閣、高島炭鉱、端島炭坑、旧グラバー住宅
  - 三池地域（福岡県、熊本県）：三池炭鉱・三池港（三池炭鉱宮原坑、三池炭鉱万田坑、三池炭鉱専用鉄道敷跡、三池港）、三角西（旧）港
  - 八幡地域（福岡県）：官営八幡製鐵所（旧本事務所、修繕工場、旧鍛冶工場）、遠賀川水源地ポンプ室

## 【福岡県内の構成資産】

名称	画像	所在地	資産概要
三池炭鉱 宮原坑		大牟田市	三池炭鉱は高島炭鉱に次いで西洋の採炭技術を導入して開発された。三池炭鉱は高品位で豊富な埋蔵量を誇り、国内外の石炭需要を担った。宮原坑は三井買収後に初めて開削された明治期から昭和初期にかけての三池炭鉱の主力坑口。第二堅坑櫓と巻揚機室等が残る。
三池炭鉱 万田坑		熊本県 荒尾市、 大牟田市	万田坑は宮原坑に次いで開削された坑口。宮原坑と共に明治期から昭和中期にかけて三池炭鉱の主力坑口として機能した。第二堅坑跡と鋼鉄製の櫓、煉瓦造の巻揚機室、倉庫及びポンプ室（旧旋風機室）等の明治期における石炭鉱業の施設が良好な形で現存する。
三池炭鉱 専用鉄道敷跡		大牟田市、 熊本県 荒尾市	三池炭鉱各坑口と積出港とを結ぶ専用鉄道。技術発展に伴い馬車鉄道から蒸気機関車、電気鉄道へと変遷した。積載量の多い石炭貨車を効率的に牽引する為に全線に渡り低勾配で設計され、切土や盛土が造成されている。煉瓦造の橋台や橋梁、開渠等の施設が現存する。
三池港 (稼働中)		大牟田市	三池炭鉱を大型船で直接積載し搬出する為に築港された。干満差の激しい有明海からもたらされる砂泥の影響を克服するため設けられた長大な防砂堤、潮位差を解消するための潮待ちの内港、閘門を備えた船渠が計画的に配置され、現在も重要港湾として機能している。
八幡製鐵所 旧本事務所		北九州市	八幡製鐵所創業2年前の1899年に竣工した初代本事務所。中央にドームを持つ左右対称形の赤煉瓦建造物で、長官室や技監室、外国人顧問技師室などが置かれた。1922年、製鐵所の規模拡大に伴って管理機能が移転した後は、鉄鋼研究所や検査室などとして利用された。
八幡製鐵所 修繕工場 (稼働中)		北九州市	1900年、製鐵所で使用する機械の修繕、部材の製作加工等を行う目的で、ドイツのグーテホフヌクスヒュッテ (G.H.H) 社の設計と鋼材を用いて建設された鉄骨建造物。その後、鋼材生産量の増大に伴って3回増築された。創業から現在まで110年以上の間、修繕工場として稼働し続けている。
八幡製鐵所 旧鍛冶工場		北九州市	1900年に、製鐵所建設に必要な鍛造品の製造を行う目的で、修繕工場と同様、ドイツのG.H.H社の設計と鋼材を用いて建設された鉄骨建造物。製鐵所の拡張工事により増築されたが、その後、1917年に現在地へ移築されるとともに製品試験所になった。現在は史料室として利用されている。
八幡製鐵所 遠賀川水源地 ポンプ室 (稼働中)		中間市	遠賀川の河口から約10キロにある八幡製鐵所の取水施設。八幡製鐵所第一期拡張工事に伴う工場用水不足を補うため、1910年に建設された。明治建築の典型的な煉瓦建造物。動力は蒸気から電気に変わったが、現在も稼働中。

「ものづくり日本」の原点、先人の偉業を伝え、次世代へと継承する

地域を知って、 参加して、 考えて、 伝えて行動する。

2月定例議会 一般質問【世界一安全な国づくりについて】-交通事故削減対策-

卷之三

知事答弁 平成26年の車両同士の事故件数は、36,494件、交通事故発生件数全体の約9割を占めており、この10年間、ほぼ同じ割合になつてている。車両事故の特徴としては、追突事故が15,164件、出会い頭の事故が10,017件と、この二つで、車両同士の事故の約7割を占めている。

交通事故をなくすためには、まずは、交通ルールの遵守を徹底することが大事である。加えて、思いやりやゆずり合いの気持ちを持つて運転するというドライバーのマナー向上させることが重要である。

2019年にラグビーワールドカップ、2020年には東京オリンピック・パラリンピックが日本で開催される。国内外から多くの観光客が福岡に来ることが期待され、この機会に安心して福岡を楽しんでいただきたいと思う。そのためにも、今後とも、思いやり、ゆずり合いの気持ちを持つた運転マナーが県民に一層浸透するよう、県議会、県警察、市町村、及び関係機関・団体と連携し、しっかりと啓発していく。



## 6月定期議会 予算特別委員会質疑

二〇四

いう目標の達成に向け、これらの取組みを進める。その上で、国の「経済・財政再生計画の内容」も踏まえ、更なる財政健全化に向けた方策について、しっかりと検討していく。財政健全化は、着実に進んでおり、現在のところ、財政改革推進プランの目標を上回る実績をあげている。これからも、税源の涵養とともに、プランの目標達成、そして更なる財政健全化に向け全力で取り組んでいく。

部長答弁　青パト車両は、防

**まちづくりについて**  
「公用車を青パトの警察パトカー仕様に」  
**部長答弁** 青パト車両は、防犯パトロールをする上で、顕示効果が高く、また、犯罪を行おうとする者への心理的な犯罪抑止効果があると認識している。パトカーのように白と黒に塗装することで、それらの効果が、より一層高まることが期待されると考える。すでに大野城市をはじめとする一部の市町村では、白と黒に塗装した青パト車両を公用車として導入しており、走行していること 자체が、防犯効果を非常に高めていると聞いている。このため、県としては、市町村が、青パトを公用車として導入する際には、白と黒に塗装していただくよう、県内市町村の導入状況等も含めて積極的に情報提供を行っていく。

シト発掘事業一、統一した

A photograph showing a man in a white shirt and dark trousers standing behind a podium with a microphone, speaking to an audience seated at long tables in a large room. The room has wooden paneling on the walls and recessed lighting. The text "知事保留質疑" (Shosei Iriro Chishiki) is overlaid at the bottom left.



知事保留質疑